

施策分野評価シート

1 基本目標・施策分野の名称

基本目標	6	便利で快適に暮らせるまち
施策分野	2	公共交通
10年後のめざす姿	町内における地域間の移動や、町内各地域から町外への玄関口であるJR箱根ヶ崎駅を結ぶ公共交通が充実し、住民誰もが円滑に移動することができます。	

2 施策数値指標

指標名	現状値	実績				令和7年度 目標値 (実績値)
		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
できれば引越したい理由のうちの「交通の便が悪い」の割合(の減少)	89.6% (令和元年度)	—				85% ()
説明・コメント		※令和6年度にアンケートを実施予定				-

3 予算・決算の状況

(単位:千円)

予算額

事業費/年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
一般財源	37,356				
国庫支出金	0				
都支出金	8,500				
地方債及びその他の特定財源	0				
総事業費(計)	45,856	0	0	0	0

(単位:千円)

決算額

事業費/年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
一般財源	155,645				
国庫支出金	0				
都支出金	32,040				
地方債及びその他の特定財源	1,947				
総事業費(計)	189,632	0	0	0	0

施策の評価(分析)

予算額と決算額の乖離は、多摩都市モノレール基金額の確定とコミュニティバス実証実験開始に伴う事業費の増加によるものである。公共交通に関する意向調査によると、町は自家用車に依存していることが伺えるが、コミュニティバスの実証実験によって、地域間の移動を把握し、利便性の高い路線を探求することが重要である。

4 重点施策			担当課	都市計画課
施策	1	バス交通の充実	基本構想・重視すべき視点	町の魅力を際立たせる
年度	【進捗状況】(主な取組等)		【評価・査定】	
令和3年度	住民の移動の円滑化、交通不便地域の解消のため、地域公共交通会議において、運行計画について検討をし、10月1日からコミュニティバスの実証実験運行を町内5コースで開始した。		準備行為も含め、実証実験に向けて多くの調整を要し、運行開始できたことは大きな成果である。今後、実証実験結果等を踏まえ、将来にわたり地域公共交通を維持できるかについても検討すべきである。	
令和4年度				
令和5年度				
令和6年度				
令和7年度				

			担当課	都市計画課
施策	2	多摩都市モノレールの整備促進	基本構想・重視すべき視点	町の魅力を際立たせる
年度	【進捗状況】(主な取組等)		【評価・査定】	
令和3年度	モノレールを呼ぼう瑞穂の会と協働した啓発活動を計画したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から多くの事業を見送った。また、町議会とともに東京都に対し多摩都市モノレール延伸の早期実現について要望を行った。		今後も関係各機関へ粘り強く要請を続けられたい。また、東京都との情報連携を密にされたい。	
令和4年度				
令和5年度				
令和6年度				
令和7年度				

5 個別事務事業概要

(単位:千円)

No.	事務事業名	担当	令和3年度		令和4年度 当初予算額
			当初予算額	決算額	
1	広域公共交通に関する要望活動	都市計画課	17,856	118,513	17,433
事務事業の概要					
町民の広域交通の利便性の向上を図るとともに、排気ガスの削減・省エネルギー対策や交通渋滞を緩和するため、町議会や加盟協議会と連携し、関係機関に対して公共交通の整備や改善等の要望活動を行う。					
No.	事務事業名	担当	令和3年度		令和4年度 当初予算額
			当初予算額	決算額	
2	地域公共交通のあり方検討	都市計画課	28,000	71,119	103,949
事務事業の概要					
町の公共交通は、JR八高線と民間及び都営バス路線が町民の身近な交通網として重要な役割を担っているが、通勤や通学、買い物やレジャーなどの移動手段として十分とはいえない状況である。また、自動車保有率が高いが、今後の超高齢社会の進行を踏まえると、自動車から公共交通への移動手段の転換が大きな課題となる。住民生活の基礎となる町内の公共交通を確保・維持するため、コミュニティバスの実証実験運行を開始する。					
合計額			45,856	189,632	17,433